

# HERO's Interview

## 004

PISUKE KAWAHARA

TECHFUND Inc. Co-Founder, CEO&CCO



### 【Hero's PROFILE】

日本の"エコシステムデザイナー"。社会起業家、技術投資家、トレイルランナー、アーティスト(VENAFUとして活動)、株式会社TECHFUND 共同最高経営責任者兼最高クリエイティブ責任者。18歳で起業を経験し、過去100件以上のプロジェクトに携わる。当時の仕事に、dynabook(東芝)WEBプロモーション、SEIKO、JVC、ウィニングイレブンパッケージデザイン、エキからエコキャンペーン、味の素キャンペーンなどがある。社会起業家としてTECH in ASIA、THE BRIDGE、TechCrunchなど多数のメディアに掲載される。21歳からは広告業界からIT業界に転身し、複数の会社を同時経営(経営参画含む)。受託制作、アフィリエイト、システム運用、サービス開発、大学向けデジタルサイネージ事業など多岐に渡り事業展開。2012年、渋谷のスタートアップベンチャーに参画。クリエイティブディレクションを軸とした独自の手法で、開発現場のチームマネジメントなどの業務に携わる。

2014年、Airbnb Japanの立ち上げにエバンジェリスト・ホストとして参画した後、2015年株式会社TECHFUNDを創業。共同最高経営責任者兼最高クリエイティブ責任者に就任。同社においてブロックチェーンズアサービス「ACCEL BaaS」の開発や、技術投資によって「スタートアップ」「イントレプレナー(\*1)」「トークンイシューア(\*2)」をサポートするプログラム「ACCEL PROGRAM」の事業推進に従事。DogHuggy、Growther、MOSO MAFIA、Fan360、AsobiCoin、Vaultitude、Ether Security、Inc.、SoftBank、TOSHIBA CORPORATION、DENSO CORPORATION、野村ホールディングス、J.FRONT RETAILING(大丸松坂屋)など数多くのスタートアップや大企業のイノベーション推進に貢献。2019年1月にはシンガポールにTECHFUND Pte. Ltd.を設立し、拠点を東南アジアに移しグローバルに活動中。

※1:企業内起業家 ※2:トークン発行体、トークンオファリングを実施する主体者。

## グローバルでも自分の想いを伝えるために TECHFUND 川原氏の英語を学ぶコツとは

**Q. まずはなぜ英語を勉強しているのか、  
ぴいすけさんのビジネスにおける英語の位置づけを教えてくださいませんか**

これまで拠点は日本のみでしたが、TECHFUNDのビジネスはブロックチェーンやトークンオファリングなど、法規制の関係でどうしても日本ではできないことも多く、必然的に海外マーケットに進出しなければならない状況がありました。

そのような状況の中で、当然クライアントだけではなくパートナーも海外の方が多いので、公用語としての英語が使えないと業務に支障が出ますし、英語がわからないと言う理由でその案件を"無意識的"にかわしてしまい、機会損失してしまったこともありました。

たとえば、弊社は今年の1月にシンガポール子会社を立ち上げたので

すが、その準備段階で僕が英語をうまく話せず、せっかくの現地での出会いを台無しにしてしまったこともあります。通訳の方もいましたが、会話をしている本人が話せないと通訳の方がいても円滑なコミュニケーションは生まれません。それなりに話せたような気がしていても、途中でビジネスアクションが途絶えてしまう。

日本語でならこまめに連絡して「お手伝いできることがあれば～」といった話もできるのですが……そのことに気づいた時に、もっとグローバルに自分や会社の想いを伝えることができる語学力及びコミュニケーション能力が欲しいと強く思うようになりました。

## Q. 子会社を立ち上げる場所としてシンガポールを選んだ理由を教えてください

トークンオフリングによる資金調達法規制の関係で日本ではできないことから、海外のマーケットを探していました。トークンオフリング件数が世界で一番多いのが EU、その次に多いのがアメリカでしたが、日本同様規制が厳しかったこともあり、3番目に件数の多いシンガポールに目をつけました。EU やアメリカは距離的な問題もあったこと、シンガポールは東南アジアの金融のハブに今後なっていくということ、ブロックチェーンプレイヤーやとにかく投資家が多いことも理由のひとつですね。



## Q. そのような背景があって英語が必要だと感じる中で、どのように勉強されましたか？

これまでに 2 つの英会話スクールに通いました。しかし、どちらの英会話スクールも同様に「1日にどれくらい英語を勉強する時間が作れましたか」と聞かれて【英語の学習時間を確保すること】をまず重視されるんですね。ただ、僕の場合はやる気がないのでなく、そもそも物理的に時間を確保できないことが多い。「時間が取れないものは取れないよね」というジレンマがありました。なので【英語の勉強の時間を確保すること】よりも【どれだけ日常の中に英語を組み込めるか】を考えるようになりました。

そもそも僕は、まず単語を覚えて、文法の勉強をして、次に例文をいくつか暗記するという勉強の仕方に、全くモチベーションが上がらなかったんです。どうしても「この文法の勉強で覚えたことの何割が仕事で使えるんだろう？」とひっかかってしまっ。英語学習の中で、唯一モチベーションが上がって自分の中

で腑に落ちる学習方法があるとしたら「今、日本語で話していることを英語にする!」ということだけでした。先に日本語で言いたいことを話してから「ハイ! 今話した文章を英語で話して」と言われて、話せるようになること。これこそが僕にとっての唯一の学習方法なんです。やっぱり、ビジネスで英語を使うことが最終的な目標なので、自分が日本語で話せる事が英語でも話せない意味がないですし、ある意味とてもシンプルな考え方で「日本語で考えていることを全て英語で話せたら目標達成」と自分に言い聞かせています。話したいことを脳内で同時通訳できる状態が理想です。

また、英会話スクールに通うことを決めて申し込んだ時点でその事実で満足してしまっている人、思考停止している人はかなり多い印象です。他にも「スクールに通えば英語を話せるようになる」といった他力本願の人も多くいますよね。

## Q. そのような「思考停止」している方と、ぴいすけさんの同業者で海外でビジネスを成功させている方では何が違うのでしょうか？

同じ業界の社長さんで英語が話せてカンファレンスとかにもガンガン出ている方は「匂わず空気」が違います。自分のことを日本人とっていないというか「日本人じゃない、アジア人だ」という空気をまとっている印象です(笑)☑️英語を話すことも「当たり前」になっていて、いい意味で英語を話すことが手段になっている。英語を習得しようとする人の多くは、英語を話すこと自体が目的になっていることが多いです。

でもその【意識の差】は実はすごく大きいと思います。英語が話せなかった時の僕は「I'm Japanese」と相手に伝えることで防御していたというか、予防線を張っていた部分がありました。でも彼らはそういうことは全くしていないんです。なぜなら、グローバルコミュニケーションによって自分の目的を達成することがゴールなので、これが意識の差です。

## Q.「思考停止」している日本人が英語を学ぶにはどのようなことを意識すべきだと思いますか？

あえて極論を言ってしまうと、とにかく危機感を感じられる状況にするしかないでしょうね。その危機感を周囲も理解している状況であればさらに理想的です。弊社は「シンガポールに行かないとビジネスが成立しない」という状況を全社員が実感していたこともあり、危機感の共有ができていたと思います。私ももうひとりの役員が Heroes English で学んでいるのですが「この2人が英語ができるようにならないとビジネスが成り立たないぞ」と他のスタッフもわかっているから、仕事の中でも英語を学ぶことを理解してもらえたのは大きいですね。周囲の協力は非常に重要です。僕は以前喫煙者だったんです。でも禁煙しようと思った時、周囲にたったひとつだけ「僕が元々タバコを吸わない人間だったかのように扱ってくれ」とお願いしたんです。そうすると、ちょっと吸いたいなと思ってタバコに手を伸ばすと「ええー!? タバコ吸う人だったっけ!?!」ととても驚かれたり、食事に行っても当たり前のように勝手に「禁煙席をお願いします」と言ってくれたり。そういうことを周囲のサポートもあって2〜3ヵ月続けると自分の脳がまるで元々喫煙者じゃなかったかのように勘違いしてくるんです。

英語に関しても同じで、会社全体で「元々うちの会社って公用語英語だったよね」といった、そう思い込むくらいの環境はすごく大事だと思います。日本人ってどうしても1人だけ英語をペラペラ話していると「あのめっちゃ意識高い感じだね」とか

言われてしまいますよね。そう言われるとせっかく英語が話せるのに躊躇してと言うか空気を読んで話さなくなってしまうこともあります。でもみんなが当たり前英語を話す環境があれば、自然とそれが当たり前になります。

現在弊社では海外との英語 MTG も抵抗なくできていますし、MTG 後のフォローアップのメッセージングなども全て英語でやり取りしています。また、社員同士の Slack でも自然と海外のイベント情報やニュースが共有されています。「ドメ（ドメスティック）な空気」をいかに排除できるかが非常に必要です。



## Q. Heroes Englishを選んだのはなぜでしょうか？

多くの英語スクールが「まずは文法を覚えましょう」のように基礎に時間をかけすぎなものか「まずは話してみよう!」のようにノーハンドなカリキュラムが多い中、Heroes English はその人に合った学習方法やその人のメンタルブロックになっている原因と向き合ってくれます。「英語勉強をしている」という感覚よりも「目的達成のための手段としての英語をベースにしたコンサルティングを受けている」という感覚が、合理的だと思ったことが大きいですね。

とはいえ、自分の弱点や自己分析は自分でやるべきだと思っていましたので、僕はコーチに指導をしてもらいながら3週間くらいかけてPDCAのCA(Check・Action)を重点的にやりました。さらに、Heroes English 的にも珍しいケースかもしれませんが「自分はこういう風に勉強したい」と言うのを自分でプロセスと教材を作って持ち込んだんです。

第一段階として、自分が今仕事で「この文章を英語で話したい」と言うのをまず日本語で書いて、それを日本語のまま英文法の語順に直してから英訳します。

(例) 私はリンゴが好きです→私は / 好きです / リンゴが

→I like Apple

そのトレーニングに慣れてきたら、第二段階として、日本語のまま英文法の語順に直すのを省略して日本語の文章を英訳します。

(例) 私はリンゴが好きです→I like Apple

第三段階としては、英語に訳すのにかかった時間を計測して、どんどん短くなるように意識します。第四段階はこれまでトレーニングしてきた日本語の文章を見て、頭の中で同時通訳のように即座に英語に変換していきます。☑これらを Google スプレッドシートを使ってトレーニングしていきました。英訳した部分が適切かどうかをコーチに採点してもらうことで、どんどん実務で使える例文が頭の中に蓄積されていきますので、あとは単語を変えれば応用が効くんです。

今はまだここまでの段階ですが、今後は頭の中に浮かんだ「今、話したいこと」を自由に話すことができたらいいなと思います。そのあとにリスニングの訓練をしようと思っています。「まずはリスニングで英語脳を作りましょう」という英会話スクールが多いので、普通のやり方とは逆かもしれません。

**Q. 確かに、どのような英語の勉強がいいんですかってよく聞かれますが、方法は人それぞれで、大切なことは「自分がこれだと思えるやり方でやり続けられるかどうか」なんですよ。**

そうなんです。英語が急に話せるようになった「自分と同じ年代くらい」の「日本人」に勉強方法などをしっかり聞くことも良いかもしれません。日本人はなぜか自分は英語が話せないのにネイティブスピーカーに憧れて TED とか見て自分が「英語が話せる何者か」になった気がしてしまい、結局そのギャップで挫折することも多いですよ。☑ネイティブスピーカーは育ちも環境も違うので英語への接し方が構造的に違うと認める必要があります。英語学習の方法については、自分のペルソナに合った人の意見がまずは大事ですし、英語レベルが高くなったあとでネイティブスピーカーを目指すべきだと思います。冷静なステップアップと見積もりができませんよ。

僕は自分で Heroes English に勉強方法を持ち込んでいますが、それが他の方にも合っているかはわかりません。そしてこの自己流の勉強方法が正しいかどうか最初には不安がありました。そのため、コーチの方に「この方法でどういうリスクがあるか」は常に指摘してもらっています。

僕の方法の場合、第一段階～第三段階くらいまではひたすら Writing しかしていないので「話すトレーニング」ができていないんです。自分では全然気づかなかったんですけど、コーチの方がリスクとして気づいてくれました。ただ、コーチはそのリスクを把握したうえで、大丈夫だと言ってくれたので、僕も自信をもって進むことができました。

ひたすら Writing のトレーニングを積んで第四段階まで来た時は「ついに来たぞ」という感じでワクワクしました。自分ひとりではプロセスに自信をもてないかもしれない内容でも、コーチと一緒に細かく作り上げていくことができるのは良いですよ。

Google スプレッドシートを活用したこの勉強方法の他にも、仕事で使う英語を、翻訳サイトなどを一切使わずに自力で訳し

て、それをコーチにチェックしてもらいそのまま仕事で使ったりもしています。僕は自社の SNS 等のメディアで情報を英語で発信するグローバルマーケティングの責任者も担当していますし、プレスリリースの作成などをすることも多いので、実践での指導を受けることができるのはとてもありがたいです。☑よく「しっかり勉強してから実践にチャレンジ」、とも言われますが、実践をしながら学ぶ方法の方が緊張感と強制力があって成長が早いと思います。仕事に英語を組み込んでしまうことで時間の確保もできますし。

そのような方法を実践しているうちに、英語に全く抵抗がなくなりました。まだ話すことは抵抗がありますが、Heroes English ではその「日本人特有のストレスレベル」をしっかりと汲み取ってくれてコーチングしてくれるので、変に無理難題を強要されてメンタルブレイクすることはありません。だからといって甘やかされるわけではなく、しっかりと組まれたカリキュラムの中で成長の実感があるのは嬉しいですね。



**Q. Heroes Englishを選んだのはなぜでしょうか？**

世界中に拠点があり、スタッフのほとんどがリモートワークの上級者で、パートナーが世界中に散らばっている状態が理想です。Decentralized にグローバル拠点を増やしていきたいと思います。



## Q. ぴいすけさん自身の今後のビジョンはどのようなものですか？

予想外の展開をする会話への対応ができるようになったらと思っています。

例えば、プレゼンテーションをする場面では資料を見ながら話をするので、その資料がある意味カンペ代わりになります。でもその後の質疑応答やパーティなどで「あの話もう少し説明して」と言われた時に説明できないこともあるので、そんな場面でも資料なしで話せるようになることを目指したいと思います。

また、30歳を過ぎたら公私ともに海外に出ていきたいという想いがありましたが、現時点ではプライベートで英語を使うことがないので、海外の友達を戦略的に作っていきたいですね。

海外の知り合いが多い友達は、それがビジネスと表裏一体でつながっていて、プライベートだけでなく仕事にも良い影響が出ているんです。僕も仕事ではグローバルの精度を上げていきつつ、プライベートでは広げていくことを意識していきたいと思います。



川原さん、貴重な時間とお話をありがとうございました！

企画：高橋佑樹  
インタビュー：大河原あゆみ